



ただデータを提出するだけで終わらず どう結果を読み解き経営に活かすかで 介護事業所の未来は変わる

2024年度介護報酬改定で見直された「科学的介護情報システム（LIFE）」の運用。具体的に何が変わり、どのような影響があるのか。そして、どう経営に活かすべきなのか。介護事業に関するセミナー講師や書籍執筆などを数多く手がけている、小濱介護経営事務所代表の小濱道博さんは「今後はLIFEを使わざるを得ない状況になるだろう」と展望する。

加算の変更はないが
データ提出頻度は短縮

今年度の介護報酬改定では、科学的介護情報システム（以下、LIFE）も見直しが行われました。ただ、制度面は何も変更されておらず、システム面の一部が変わりました（図表1）。具体的には登録項目の一部変更やフィードバックデータの修正になります。特に大きく変わった点は、「データの提出頻度」です。これまでは、算定する加算によって「3カ月に1回」だったり「6カ月に1回」だった

していました。しかし、今回の報酬改定でどの加算も「3カ月に1回」に統一されました。

LIFEの運用は2021年4月から始まりましたが、当初はトラブルが相次いでいました。フィードバックデータも、本来はグラフ化されたものが出てくるはずだったのですが、実際は暫定版として集計表だけが出てきました。一昨年からグラフ化されたフィードバックが出ましたが、それも全国値との比較のみにとどまっています。つまり、はっきり言うと「使い物にならなかつ

た」というわけです。

そのため、自治体による運営指導でも、LIFEについてはこれといって触れてきませんでした。算定要件に「LIFEの活用」を含めている加算は多数ありますが、LIFEの活用ができていなかったために、運営指導ではノートタチの状態が長いこと続いていたのです。

今回の改定では、フィードバックの修正も予定されています。事前の周知では都道府県ごと、事業規模ごとにデータを選べる仕様になるとのことです。これにより、

たとえば「東京都の30人規模のデイサービス」であれば、地域特性や事業規模によってデータを比較することが可能になります。そこまで明確なフィードバックが出るようになれば、これまでスルーされていた運営指導でのチェックも厳格になるはず。

そもそも「フィードバックデータをダウンロードして職員と共有し、必要に応じてリハビリ計画を見直す」という作業は科学的介護推進体制加算の算定要件ですが、今まではデータを提出するだけで算定できた部分がありました。た

だ、今後はデータを活用した記録がなければ最悪、加算が返還になってしまう事業所が出てくる可能性もあります。

LIFEの活用が始まった2021年当時は、新型コロナウイルスが大流行した頃でした。そのため、介護事業者は感染対策が優先でLIFEを勉強する機会がなかったことや、運営指導もきちんと行われていなかったことで、

介護事業者にとってもどうすればいいのかわからない状態だったのではないかと思います。

LIFE未使用では
収益に影響する？

LIFEのフィードバックは算定した加算ごとに提供されるので、たとえば利用者が100人いる事業所で3種類の加算を算定していたら、300枚のデータが

戻ってくるわけです。それを一人ずつ確認するとなると、ものすごい時間を費やすことになってしまいます。そのため、各施設でデータの分析方法やケアへの活用方法といったノウハウも持っているかが、今後のポイントとなるでしょう。

厚生労働省では、介護DXのプラットフォームとして「介護情報基盤」を2026年度から始める



小濱道博
Michihiro Kohama

小濱介護経営事務所代表

日本全国対応で介護経営支援を手がける。介護事業経営セミナーの講師実績は、北海道から沖縄まで全国で年間300件以上。昨年も延べ2万人以上の介護事業者を動員。全国の介護保険課、各協会、社会福祉協議会、介護労働安定センターなどの主催講演会での講師実績は多数。介護経営の支援実績は全国に多数。著書、連載多数

小濱介護経営事務所

東京都台東区台東1-14-10・801
TEL 03-62684-4086

図表1 2024年度介護報酬改定でのLIFEの変更点

1 新LIFEシステムへの移行

- 入力画面やマニュアルの内容を見直し
- 「新規利用登録方法」や「問い合わせ機能」などの機能改善

2 アウトカム評価の充実

- 介護の質向上や自立支援などに向けた取り組みを推進する観点から、一部加算の項目および要件を見直し
例)ADL維持等加算(II)のADL利得を「2以上」から「3以上」に

3 入力項目・データ提出 タイミングの見直し

- 重複している項目の名称や評価指標を統一
- データの提出タイミングを「少なくとも3カ月に1回」に統一

4 フィードバックの見直し (以下が可能に)

- ブラウザ上での操作
- 複数時点での時系列変化の参照
- 全国値をさまざまな要素で絞り込み、類似した施設や利用者との比較
- 全国値に対する自施設の位置の参照

資料：厚生労働省科学的介護情報システム（LIFE）第1回説明会（介護施設・事業所向け）「資料」説明1 科学的介護およびLIFEについて」より抜粋